

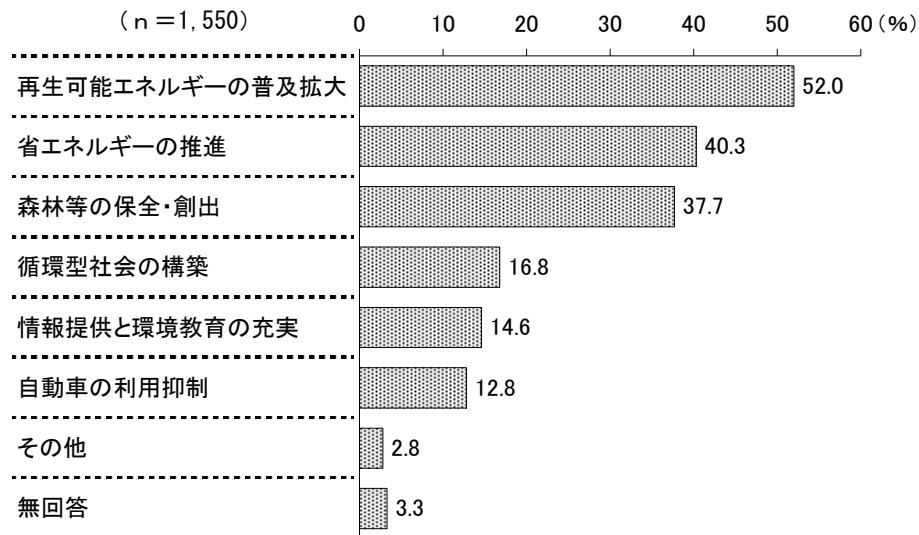
8 環境

(1) 地球温暖化防止への取組（B：問10）

問. 地球温暖化防止には、どのような取組が必要であると思いますか。

（2つまで選んでください）

図8－1－1 地球温暖化防止への取組



【全体】

地球温暖化防止への取組について聞いたところ、「再生可能エネルギーの普及拡大」（52.0％）が5割を超えて最も高く、次いで「省エネルギーの推進」（40.3％）、「森林等の保全・創出」（37.7％）、「循環型社会の構築」（16.8％）、「情報提供と環境教育の充実」（14.6％）となっている。

【経年変化】

平成29年度調査では、選択肢が過去と異なっているため、参考に記載する。

表8－1－1 地球温暖化防止への取組－経年変化（上位5項目）

(%)

順位	平成29年度 (n=1,550)	平成27年度 (n=1,445)	平成25年度 (n=1,284)	平成23年度 (n=815)	平成21年度 (n=1,608)	平成19年度 (n=1,500)	平成17年度 (n=1,002)
1	再生可能エネルギーの普及拡大 52.0	各家庭や企業における省エネルギーの推進 67.3	各家庭や企業における省エネルギーの推進 70.1	各家庭や企業における省エネルギーの推進 78.4	各家庭や企業における省エネルギーの推進 81.6	各家庭や企業における省エネルギーの推進 80.8	各家庭や企業における省エネルギーの推進 79.5
2	省エネルギーの推進 40.3	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 36.5	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 47.7	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 46.9	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 50.3	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 48.3	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 49.8
3	森林等の保全・創出 37.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 23.8	行政による地球温暖化防止のPR活動 22.4	行政による地球温暖化防止のPR活動 16.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 19.4	行政による地球温暖化防止のPR活動 21.6	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 23.5
4	循環型社会の構築 16.8	行政による地球温暖化防止のPR活動 23.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 18.5	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 13.7	行政による地球温暖化防止のPR活動 15.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 19.5	行政による地球温暖化防止のPR活動 21.7
5	情報提供と環境教育の充実 14.6						

（注）平成27年度調査以前では、表8－1－1に示した4つの選択肢と「その他」の合計5つの選択肢で質問していた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「再生可能エネルギーの普及拡大」(53.9%)が女性(50.5%)より3.4ポイント、「自動車の利用抑制」(14.5%)が女性(11.4%)より3.1ポイント高くなっている。一方、女性では「情報提供と環境教育の充実」(15.9%)が男性(12.9%)より3.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20歳未満では「再生可能エネルギーの普及拡大」(60.0%)が6割、「循環型社会の構築」(28.0%)が3割近くと高くなっている。80歳以上では「自動車の利用抑制」(20.5%)が約2割と高くなっている。

表8-1-2 地球温暖化防止への取組—性別、年齢別

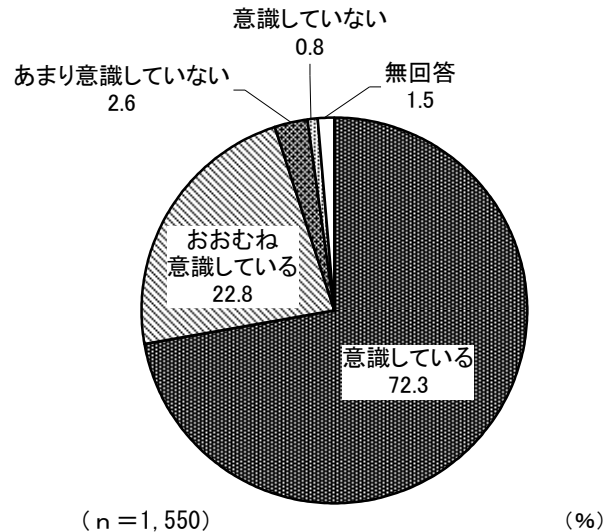
(%)

		n	再生可能エネルギーの普及拡大	省エネルギーの推進	森林等の保全・創出	循環型社会の構築	情報提供と環境教育の充実	自動車の利用抑制	その他	無回答
全 体		1,550	52.0	40.3	37.7	16.8	14.6	12.8	2.8	3.3
性別	男 性	684	53.9	39.8	36.5	18.1	12.9	14.5	3.2	2.5
	女 性	839	50.5	41.1	38.7	15.5	15.9	11.4	2.3	3.8
年齢別	20歳未満	25	60.0	40.0	44.0	28.0	16.0	4.0	—	—
	20～29歳	108	57.4	38.9	38.9	14.8	13.0	13.9	2.8	1.9
	30～39歳	180	55.6	44.4	40.6	14.4	13.3	8.3	3.9	1.1
	40～49歳	263	48.7	44.5	38.0	15.6	13.7	12.9	3.8	2.7
	50～59歳	234	57.7	38.5	38.0	20.5	13.2	9.4	2.1	2.6
	60～69歳	330	52.7	38.8	37.3	20.6	15.2	11.8	2.7	2.1
	70～79歳	283	52.7	40.6	37.5	13.4	15.2	16.6	1.8	4.6
	80歳以上	112	33.9	33.9	31.3	10.7	17.9	20.5	3.6	11.6

(2) 資源とごみの分別 (B: 問11)

問. 資源とごみの分別を意識していますか。(1つだけ選んでください)

図8-2-1 資源とごみの分別



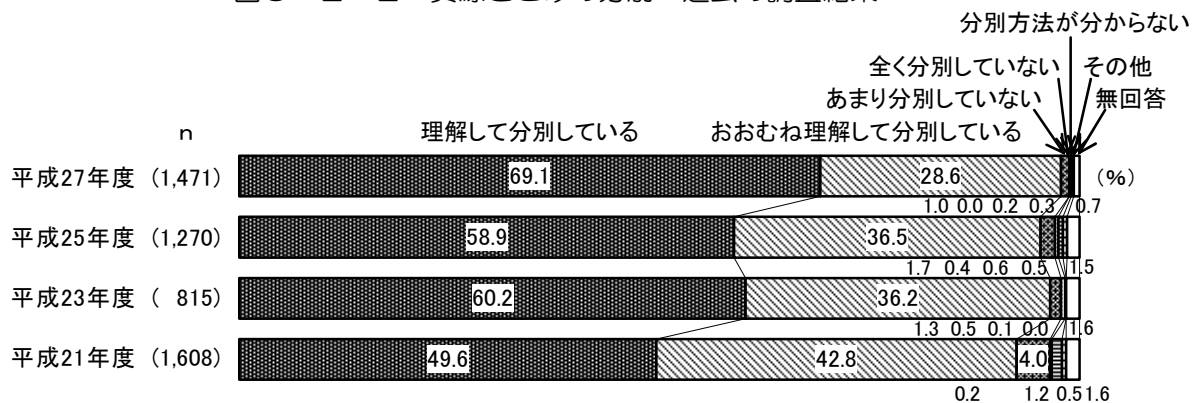
【全体】

資源とごみの分別の意識について聞いたところ、「意識している」(72.3%)と「おおむね意識している」(22.8%)の2つを合わせた『意識あり』(95.1%)が9割半ばと高くなっている。「あまり意識していない」(2.6%)と「意識していない」(0.8%)の2つを合わせた『意識なし』(3.4%)は1割未満となっている。

【経年変化】

平成27年度以前の調査では、「資源とごみの分別方法を理解し、積極的に分別しているか」について質問していた。質問文や選択肢が異なっているため、平成27年度以前の調査結果を参考に記載する。

図8-2-2 資源とごみの分別—過去の調査結果

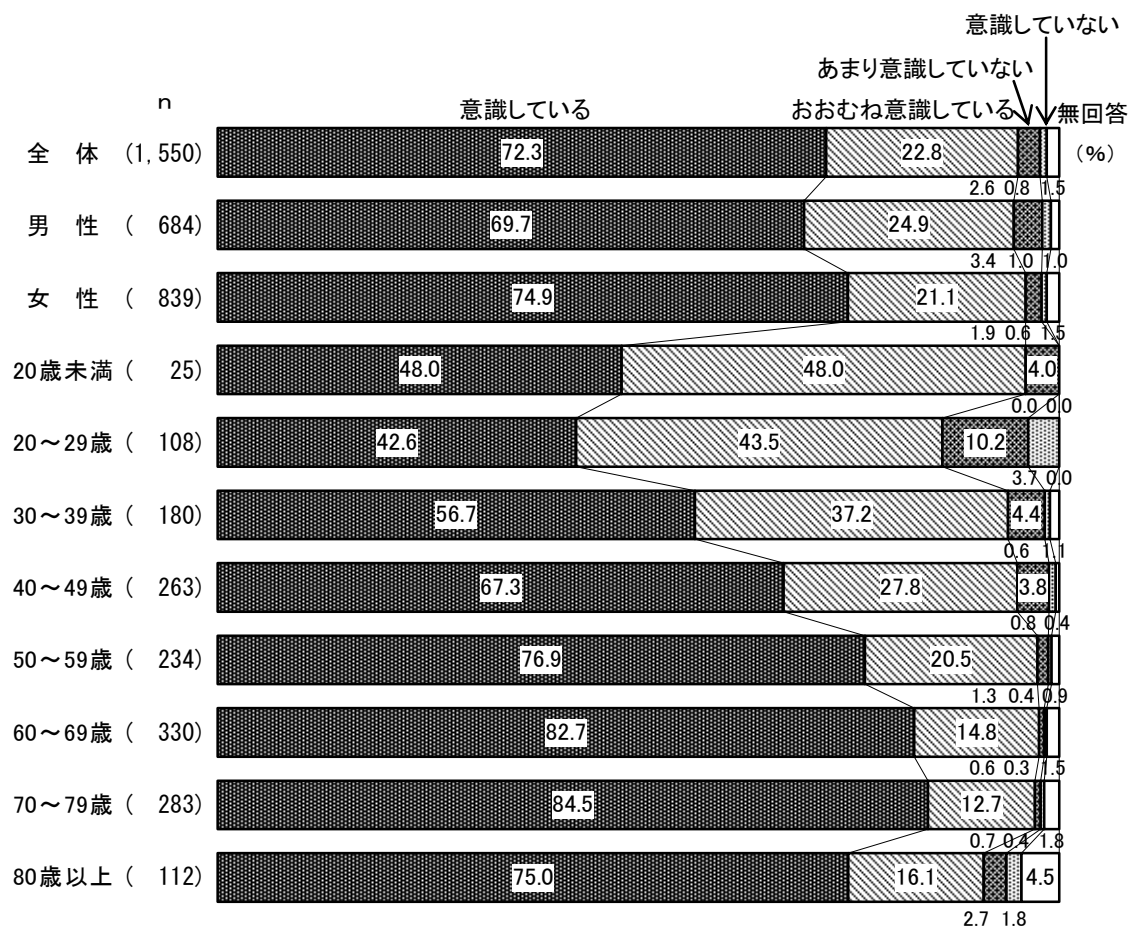


【属性別】

性別で見ると、女性では「意識している」(74.9%)が男性(69.7%)より5.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『意識あり』は20～29歳(86.1%)以外のすべての年代で9割台と高くなっている。60～79歳では「意識している」が8割台と高くなっている。

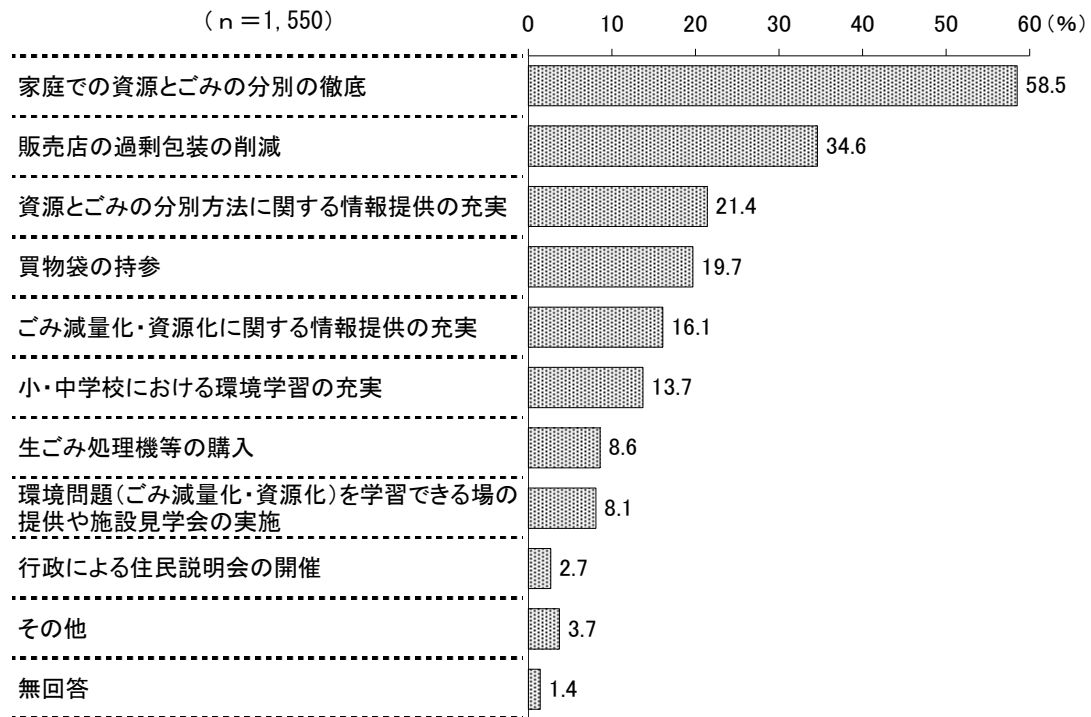
図8-2-3 資源とごみの分別—性別、年齢別



(3) ごみの減量化・資源化の推進 (B: 問12)

問. ごみの減量化・資源化を推進する上で、どのような取組が重要であると思いますか。
(2つまで選んでください)

図8-3-1 ごみの減量化・資源化の推進



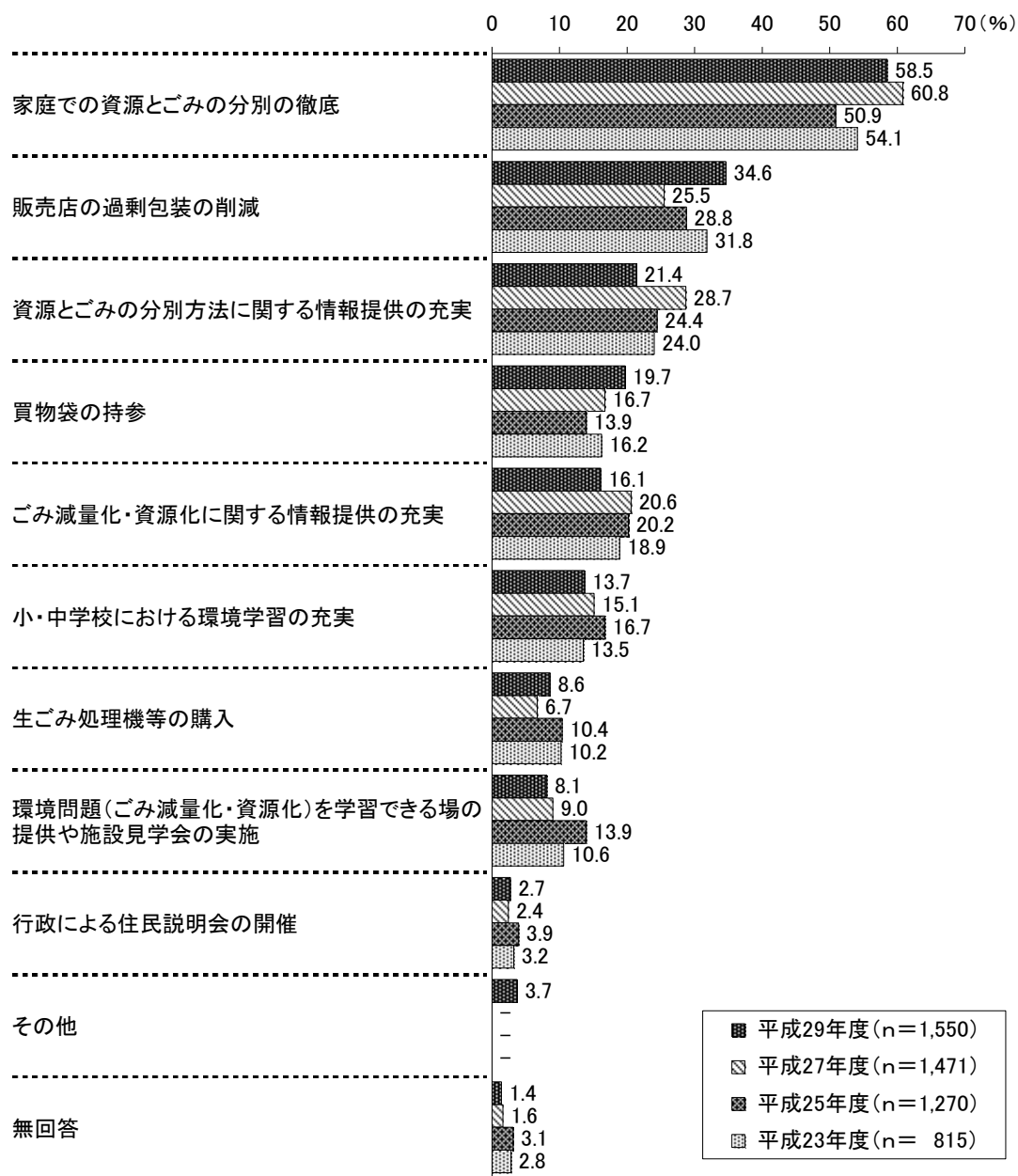
【全体】

ごみの減量化・資源化の推進について聞いたところ、「家庭での資源とごみの分別の徹底」(58.5%)が6割近くで最も高く、次いで「販売店の過剰包装の削減」(34.6%)、「資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実」(21.4%)、「買物袋の持参」(19.7%)、「ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実」(16.1%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「販売店の過剰包装の削減」(34.6%)は平成27年度調査(25.5%)より9.1ポイント、「買物袋の持参」(19.7%)は平成27年度調査(16.7%)より3.0ポイント増加している。一方、「資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実」(21.4%)は平成27年度調査(28.7%)より7.3ポイント、「ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実」(16.1%)は平成27年度調査(20.6%)より4.5ポイント減少している。

図8-3-2 ごみの減量化・資源化の推進一経年変化



(注) 平成29年度調査では、「その他」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「買物袋の持参」（24.8％）が男性（13.9％）より10.9ポイント高くなっている。一方、男性では「小・中学校における環境学習の充実」（15.9％）が女性（12.0％）より3.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20歳未満と70～79歳では「家庭での資源とごみの分別の徹底」が6割台後半、「買物袋の持参」が3割近くと高くなっている。30～39歳では「販売店の過剰包装の削減」（46.1％）が4割半ばを超え高くなっている。

表8-3-1 ごみの減量化・資源化の推進—性別、年齢別

(%)

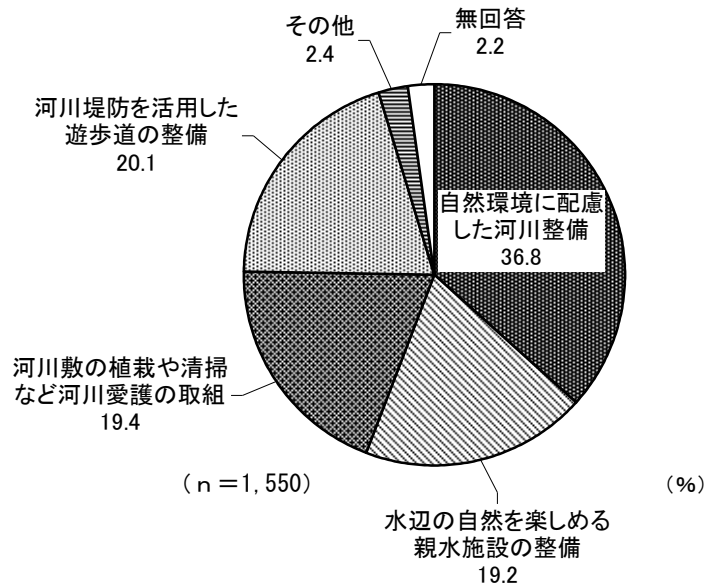
		n	家庭での資源とごみの分別の徹底	販売店の過剰包装の削減	資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実	買物袋の持参	ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実	小・中学校における環境学習の充実	生ごみ処理機等の購入	環境問題（ごみ減量化・資源化）を学習できる場の提供や施設見学会の実施	行政による住民説明会の開催	その他	無回答
全 体		1,550	58.5	34.6	21.4	19.7	16.1	13.7	8.6	8.1	2.7	3.7	1.4
性別	男 性	684	57.3	33.0	23.0	13.9	17.1	15.9	9.6	9.4	4.1	4.5	1.2
	女 性	839	59.5	35.9	20.3	24.8	15.6	12.0	7.7	7.0	1.5	2.9	1.2
年齢別	20 歳 未 満	25	68.0	20.0	24.0	28.0	16.0	16.0	16.0	4.0	—	—	—
	20 ～ 29 歳	108	43.5	37.0	25.0	22.2	17.6	17.6	7.4	8.3	0.9	4.6	—
	30 ～ 39 歳	180	47.8	46.1	24.4	17.8	11.1	17.2	13.9	6.7	0.6	4.4	—
	40 ～ 49 歳	263	50.6	36.5	22.1	16.7	19.0	12.9	10.3	7.2	1.1	6.5	1.1
	50 ～ 59 歳	234	58.5	34.6	23.9	14.1	14.1	17.1	7.7	13.7	1.7	3.4	1.3
	60 ～ 69 歳	330	63.3	34.5	20.6	20.0	15.5	13.6	6.7	7.9	1.8	3.6	1.2
	70 ～ 79 歳	283	69.3	26.9	17.3	26.9	17.3	12.4	6.4	6.4	5.7	1.4	1.8
	80 歳 以 上	112	64.3	31.3	18.8	19.6	18.8	3.6	9.8	5.4	9.8	3.6	3.6

(4) 河川整備への取組 (B: 問13)

問. 厚木市内の河川整備について、どのような取組が必要であると思いますか。

(1つだけ選んでください)

図8-4-1 河川整備への取組



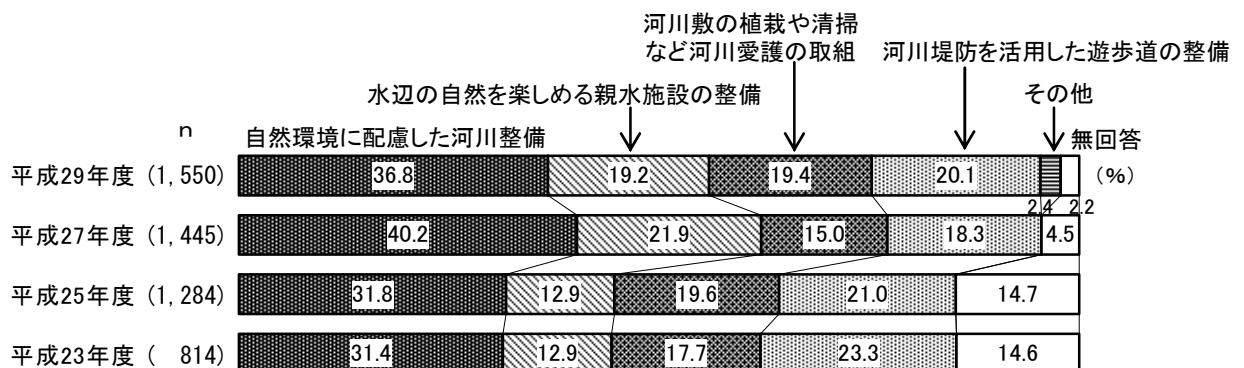
【全体】

河川整備への取組について聞いたところ、「自然環境に配慮した河川整備」(36.8%)が3割半ばを超えて最も高く、次いで「河川堤防を活用した遊歩道の整備」(20.1%)、「河川敷の植栽や清掃など河川愛護の取組」(19.4%)、「水辺の自然を楽しむ親水施設の整備」(19.2%)となっている。

【経年変化】

平成29年度調査では、一部の選択肢が過去と異なっているため、参考に記載する。

図8-4-2 河川整備への取組—経年変化



(注1) 「河川敷の植栽や清掃など河川愛護の取組」は、平成27年度調査以前では「河川敷に植栽をしたり清掃をしたりするなど河川愛護の取組」としていた。

(注2) 平成29年度調査では、「その他」の選択肢を追加している。

(注3) 平成25年度調査以前では、「河川環境の整備がされていると感じることは何ですか。」と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「河川堤防を活用した遊歩道の整備」(22.1%)が女性(18.6%)より3.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、80歳以上では「自然環境に配慮した河川整備」(43.8%)が4割半ば近くで高くなっている。20歳未満では「河川敷の植栽や清掃など河川愛護の取組」(28.0%)が3割近くと高くなっている。30～39歳では「水辺の自然を楽しめる親水施設の整備」(30.0%)が3割と高くなっている。

図8-4-3 河川整備への取組一性別、年齢別

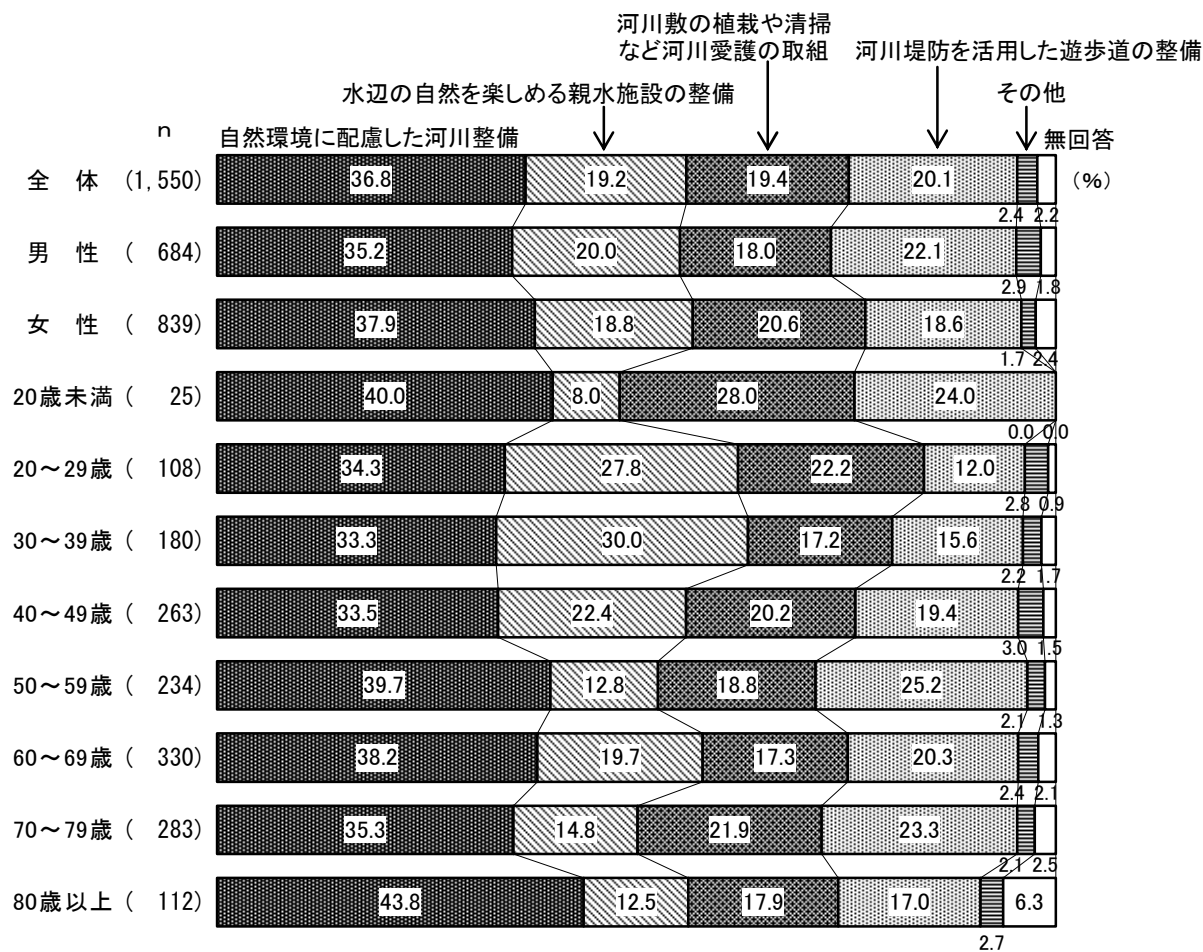


図8-4-4 河川整備への取組—居住地区別

